

平成22年度地区別市政懇談会意見・要望 北地区

平成22年8月18日

No.	質問内容	地区別市政懇談会における回答	現在の状況及び今後の対応等の補足	担当課
1	<p>秦野市全体のこども会の数、組織率はどれくらいか。 また、減少を食い止め、回復させる案はあるか。</p>	<p>6歳以上15歳以下(こども会に入れる年齢)の人数は13,500人。そのうち約4,500人で3割強が会に加入している これ以上減らさないためには地域の力が必要であると考えます。</p>	<p>今後子どもの減少が予想される中、隣接の子ども会を合併することなども組織を維持する方法と考えます。 また、加入率の増加については、魅力ある子ども会事業の展開が必要と考えます。 引き続き子ども会育成連絡協議会へ支援いたします。</p>	こども育成課
2	<p>地域まちづくり計画にある、新東名を活かした利便性の高い活力あるまちの具体的なイメージはどのようなものか。スマートインターによる周辺の土地利用はどうか。周辺は農用地のほずで簡単に市街化区域化できないと思う。利便性が高いというのは、農業を基盤とするのか、観光を基盤とするのか。</p>	<p>周辺の遊休農地の整備・活用につなげるために自由に出入りができるスマートインターチェンジを国や県に働きかけていきたい。 県内でインターのない海沿いのまちは元気がなく現実にインターのないまちはさびれている。交通の便が悪く、工場が移転してしまえば、雇用が守れない。高速がなければまちは活性化しない。このようなイメージを持ってほしい。 新東名ができるると市外からのアクセスも便利になる。戸川公園も拡大する方針を県が出していることから将来的にはスポーツ施設の誘致なども考えていきたい。</p>	<p>北地区に設置予定のサービスエリアにスマートインターが設置されれば、交通の利便性の向上とともに、観光客の増大が見込まれます。 このため、地域の資源を活用し、周辺環境との調和を図りながら、地域経済の活性化や、観光振興に向けた土地利用の検討を総合計画に位置づけていきたいと考えています。</p>	企画課

平成22年度地区別市政懇談会意見・要望 北地区

平成22年8月18日

No.	質問内容	地区別市政懇談会における回答	現在の状況及び今後の対応等の補足	担当課
3	<p>新しく住民になった人たちがなかなか地域になじまない。地域コミュニティの活性化のために、その地域に住所を持つ職員の積極的な参加はできないのか。付き合いをしたくない人には強く言えない。行政の経験者が地域にいればと思う。</p>	<p>転入者に対しては自治会加入を勧めている。また、長期的なものにはなるが、各地区の自治会の中で職員が協力していくという計画もある。コミュニティについては、個人情報保護などの観点で社会がうまく回らなくなっている一面がある。国会で社会生活という立場で法を見直してほしいと思っている。現状にあった形にするよう国へ働きかけたい。</p>	<p>行政職員の地域への配置については、秦野市地域コミュニティ活性化検討委員会から提言された「秦野市地域コミュニティ活性化に関する提言」にも盛り込まれており、今後、この提言内容について検討していきます。</p>	<p>市民自治振興課</p>
4	<p>秦野は盆地でスモッグがかかりやすい。新東名について、中日本高速道路へ特別な要望はしているか。</p>	<p>交通量の総量は現東名が新東名に分散するので、変わらないと想定されている。渋滞が減少することにより、排気ガスは現在より削減されると考えている。 しかし、サービスエリア(SA)で滞留する自動車からのCO2の増加やSAからの光の拡散も考えられるので、様々な機会をとらえ、環境への配慮を、中日本へ求めていく。</p>	<p>平成5年度に、事業に対する環境アセスメントが実施されています。</p>	<p>国県事業推進課</p>
5	<p>公共施設再配置の順位の付け方を知りたい。 また、最終決定の方法は。各地区に割り振って削減するのか心配。地域の意見を取り入れるようお願いしたい。</p>	<p>外部第三者の有識者会議からの提言を踏まえ決めた。まず最優先を決めて、そのほかについてはアンケート調査等市民ニーズを踏まえ位置づけする。納税者と施設利用者の気持ちと意思を、同じテーブルで話し合っただき、公開の中で意見を十分に聴いたうえでやっていく。 削減については、各地区、割り振ってということではない。各地区の状況を踏まえて行うので、一律どの地区も一割カットというような手法ではない。</p>	<p>懇談会における回答と同じ</p>	<p>公共施設再配置計画担当</p>

平成22年度地区別市政懇談会意見・要望 北地区

平成22年8月18日

No.	質問内容	地区別市政懇談会における回答	現在の状況及び今後の対応等の補足	担当課
6	<p>財政状況が厳しいということだが、一期目のときのように市長の報酬の一部返納の予定はあるのか。</p>	<p>大事な提言として議会と相談していきたい。</p>	<p>懇談会における回答と同じ</p>	<p>人事課</p>
7	<p>民生委員の年齢制限65歳を緩和して欲しい。</p>	<p>民生委員の年齢は国や県が定めているが、神奈川県は国の制度より基準が甘い。秦野市については県の基準で制限している。年齢については柔軟に対応してよいと県も話している。現実と合っていない部分については市、長会等を通じて制度の改善を求めていきたい。</p>	<p>民生委員の年齢要件については、神奈川県において定めておりますが、地域の実情を踏まえた弾力的な運用が可能となっております。</p>	<p>地域福祉課</p>
8	<p>7月24日の読売新聞に交付団体に転落した団体が載っていた。秦野市は載っていなかったが、努力か何かでなっていないのか。</p>	<p>リーマンショック以降、景気低迷のあおりで秦野市については平成21年度から交付団体になっている。 法人市民税や個人市民税の落ち込みで22年度はさらに厳しくなっている。 しかし、秦野市は交付税に頼らねばやっていけない、という状況ではない。大切なのはどこを向いているか、やっていく力はあるか、という中身。その点では秦野市は大丈夫といえる。 しっかりと無駄を省き無理をしないでやっていきたい。</p>	<p>懇談会における回答と同じ</p>	<p>財政課</p>
9	<p>子ども同士の上下関係のあるコミュニティの減少をくいとめる策はあるのか。</p>	<p>難しい問題ですが、こども次世代育成の計画を作っているの中で検討していきたい。 地域のために汗をかく人が少なくなっている。地域を支えていくのは地域なので御協力お願いしたい。もちろん市もできることはしっかりやっていきたい。</p>	<p>子ども会活動や児童館での集団遊びや異世代交流などを通じた地域での交流が必要と考えます。</p>	<p>こども育成課</p>

平成22年度地区別市政懇談会意見・要望 北地区

平成22年8月18日

No.	質問内容	地区別市政懇談会における回答	現在の状況及び今後の対応等の補足	担当課
10	植樹祭で活動した地元住民に対して当日の待遇が寂しかった。もっと地元に対し、参加してよかったと思えるような待遇を望む。	申し訳ありません。県主催なので開催市の市長でさえ出番がありませんでした。10月10日に感謝祭を開催するので、そこでみなさんの労をねぎらいたいと考えています。	10月10日には天候にも恵まれ「全国植樹祭感謝祭」を県立戸川公園で開催し、改めて地元の皆様とともに、全国植樹祭の開催をお祝いいたしました。引き続き、次の世代にもつなげる持続的な市民参加の森林づくりを行っていきます。	森林づくり課
11	家庭用の廃油の回収方法の周知徹底をお願いしたい。	婦人会や公民館が回収拠点になっていますが、周知徹底についてはやっていきたい。	「広報はだの」で周知を行っています。また、廃油を原料としたBDFを燃料として使用しているパッカー車を走らせたり、市民の日に展示し、PRに努めています。	環境保全課